

沖繩県では産業振興策

の切り札として「経済特
別区形成」を位置付け、
物流・加工ゾーン、情報
産業集積ゾーン、観光振
興ゾーンの三ゾーンの設
定を目指している。

本県はこれまで、沖繩
開発庁の沖繩振興開発事
業において、復帰後から
一九九五年までに約四兆
五千八百七十億円の資金
が投入されてきたが産業
振興策は実を結んでいな
い。社会資本は整備され
つつあるが、それらがう
まく生かされていないの

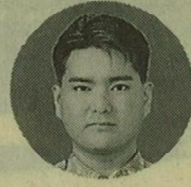
が現状である。

その中の一つに「沖繩
自由貿易地域」がある。
沖繩自由貿易地域は八八
年にオープンし、当時の
入居企業数二千七社から
十一社（九六年四月一日
現在）へ減少しているこ
とからも分かるように、
うまく機能していない。

自由貿易地域の不振理
由の一つに「インフラ整
備オンリー」で終わって
いることが挙げられる。
沖繩自由貿易地域の設置
目的は、「沖繩における
企業の立地と貿易の振興

に資することであり、
「自由貿易地域」の設置
そのものが目的ではな
い。

つまり、沖繩の「自由



高良 守

貿易地域」は、その目的
を実現させるための一手
段であるが、その手段が
「目的化」してしまっ
ているところに問題があ

る。いわゆる「ハコもの
づくり」で終わってしま
っているため、企業を沖
繩へ引っ張ってくる法整
備などのソフト面のイン

か。近隣諸国のフリー・
トレードゾーンなど、貿
易促進地域の場合、必
ずハード面（インフラ整
備などのハコ）とソフト
面など両局面からのアフ

オンリーの産業振興策
は、従前の二の舞にな
りかねない。インフラ整
備は貿易促進のための必
要条件であるが十分条件
ではない。ハード面のみ
の産業振興策は不公平に
なってしまう。

今年四月十九日に中
国の貨物船が福建省のア
モイから台湾・高雄港に
入港し、半世紀ぶりの中
台直航貿易を実現させ
た。沖繩はすでにあらゆる
面で中国などの近隣諸
国に後れをとっているほ
かりでなく、激動する社
会情勢にも追い付けない
状態である。世界市場は
こちらの準備ができるの
を待ってくれない。

フリーゾーンの活性化

法整備などソフト面の充実を

センティブ（誘因？）が抜
け落ちている。

面（諸制度の優遇措置）
がうまく組み合わされて
いる。

ローチが必要であり、本
土・外国企業を沖繩へと
引っ張ってくるインセン
ティブが必至である。

このように、果
たして沖繩の産業振興の
実現が可能なのであろう

このように、
「県
規制緩和委員」を固め、
県要望の実現に向け取り
組む方針であることが報
じられている。

このように、果
たして沖繩の産業振興の
実現が可能なのであろう

沖繩自由貿易地域の振
興のためには、施設の整

備・拡充などハード面お
よび法整備や港湾・空港
使用料・公租公課の減免
・優遇措置などのソフト

今年四月十九日に中
国の貨物船が福建省のア
モイから台湾・高雄港に
入港し、半世紀ぶりの中
台直航貿易を実現させ
た。沖繩はすでにあらゆる
面で中国などの近隣諸
国に後れをとっているほ
かりでなく、激動する社
会情勢にも追い付けない
状態である。世界市場は
こちらの準備ができるの
を待ってくれない。

このように、
「県
規制緩和委員」を固め、
県要望の実現に向け取り
組む方針であることが報
じられている。

論

壇

二ノ三ノ八、学生「投稿」